

科目名	Excel						
科目名(英)	Excel						
単位数	3単位	時間数	23時間	担当者			
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科1年						
授業概要	Excel2016を使用し、表計算処理能力を身につけ、ビジネスの現場で必要とされるレポートや報告書の作成活用能力の向上を図ることを目的として実施する。また表計算処理の基礎的な技能を有していることを確認するためExcel表計算処理技能認定試験3級の合格を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
		○	○			計算式を組み立てる	
		○	○			状況に適したグラフを作成する	
		○	○			Excelの機能を用いてデータ分析の資料を作成する	
テキスト・教材 参考図書	・30時間でマスター Word2016 ・Word文書処理技能認定試験3級問題集 ・タイプクイック						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	表作成①			タイプクイックLesson1～6		
	2	表作成②			タイプクイックLesson1～6		
	3	計算式①			タイプクイックLesson1～6		
	4	計算式②			タイプクイックLesson1～6		
	5	計算式③			タイプクイックLesson1～6		
	6	グラフ作成①			タイプクイックLesson1～6		
	7	グラフ作成②			タイプクイックLesson1～6		
	8	データベース①			タイプクイックLesson1～6 ⇒提出		
	9	データベース②			検定問題集の実施		
	10	検定対策(練習問題レベル1)			検定問題集の実施		
	11	検定対策(練習問題レベル2)			検定問題集の実施		
	12	検定対策(練習問題レベル3)			検定問題集の実施		
	13	検定対策(練習問題レベル4)			検定問題集の実施		
	14	検定対策(練習問題レベル5)			検定問題集の実施		
	15	検定対策(練習問題レベル6)			検定問題集の実施		
	16	検定対策(模擬問題レベル1)			検定問題集の実施		
	17	検定対策(模擬問題レベル2)			検定問題集の実施		
	18	検定対策(模擬問題レベル3)			検定問題集の実施		
	19	検定対策(模擬問題レベル4)			検定問題集の実施		
	20	検定対策(模擬問題レベル5)			検定問題集の実施		
	21	検定対策(模擬問題レベル6)			検定問題集の実施		
	22	検定対策(サンプル問題)					
23	後期実技試験						
評価方法	(1)Excel表計算処理技能認定試験3級 (2)後期実技試験						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	Excel表計算処理技能認定試験		○	◎			50%
	後期実技試験		○	◎			50%
履修上の注意	操作技能が3級レベルに達しない場合は補講を実施する						

科目名	Excel						
科目名(英)	Excel						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	企業で最も使われているソフトの1つであるExcelの操作方法を習得する。Excelは統合型表計算のソフトウェアといわれ、表計算・グラフ作成・データベース機能を持っている。テキスト「30時間でマスターExcel2016」を使ってそれらの機能の基本的な操作方法を習得する。問題集「2016対応 Word 文書処理技能認定試験 3級問題集」を使ってより高度な機能の習得と検定対策の学習をする。また、検定対策の一環として客観的に自分の解答が正しいか判断できるようになるため自己採点を行う。						
授業形式	講義: △	演習: △	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○				Excelで作成ができる。		
	○				Excelでグラフの作成と編集ができる。		
	○				Excelでデータベース処理(並べ替えや抽出)ができる。		
	○				Excelで使われる正しい用語の説明ができる。		
	○	○			Excel表計算処理技能認定試験3級に合格する。		
テキスト・教材 参考図書	30時間でマスター Excel2016 2016対応 Excel 表計算処理技能認定試験 3級問題集						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	Excelの概要・データの種類の入力方法					
	2	簡単な表の作成・練習問題			テキスト記載の実習問題1~4の表作成を完成させる		
	3	基本のグラフ作成・練習問題			テキスト記載の実習問題1~4のグラフ作成を完成させる		
	4	表の編集(表の構成・書式設定・罫線)			テキスト記載の実習問題7~10を完成させる		
	5	セルの書式設定・絶対参照を使う計算・関数(2から選べる関数)			テキスト記載の実習問題11~15を完成させる		
	6	いろいろな関数(COUNTA,ROUND類,RANK類,IF)			テキスト記載の実習問題16~18,37を完成させる		
	7	スパークライン・グラフ機能			テキスト記載の実習問題20~26を完成させる		
	8	データベース機能			テキスト記載の実習問題34,35を完成させる		
	9	検定問題集_練習問題1を演習を見ながら実習					
	10	検定問題集_練習問題1を演習を見ながら実習			練習問題1を仕上げる。		
	11	検定問題集_練習問題2_演習による解説後、各自で実習			練習問題2を仕上げる。		
	12	検定問題集_練習問題3_演習による解説後、各自で実習			練習問題3を仕上げる。		
	13	検定問題集_模擬問題1_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題1を仕上げる。		
	14	試験プログラムの使用方法・模擬試験1回目					
	15	検定問題集_模擬問題2_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題2を仕上げる。		
	16	検定問題集_模擬問題3_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題3を仕上げる。		
	17	検定問題集_模擬問題4_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題4を仕上げる。		
	18	検定問題集_模擬問題5_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題5を仕上げる。		
	19	検定問題集_模擬問題6_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題6を仕上げる。		
	20	検定問題集_模擬問題7_各自で実習し、不明点に個別対応。			模擬問題7を仕上げる。		
	21	模擬試験2回目					
	22	模擬試験解説・質疑・別問題					
23	期末試験実技						
評価方法	(1)授業の中で検定対策として模擬試験を2回実施する。(2)テキスト「30時間でマスターExcel2016」内の実習問題を70%以上仕上げる。(3)授業中に終了しなかった問題集の課題を全て仕上げる。((2)(3)については授業終了時にメモリ提出)(4)問題集の模擬問題1~7について採点表をもとに自己採点しプリントで提出する。(5)検定試験と同程度の実技期末試験を行う。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	期末試験実技	○	◎	○			50%
	模擬試験	○	◎	○			15%
	上記(2)課題提出		◎	○	◎		10%
	上記(3)検定問題集	○	◎	○	○		20%
上記(4)自己採点表提出	○	○		◎		5%	
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、評価Dとする。						

科目名	INFINI						
科目名(英)	INFINI						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	若松 昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	INFINIは、業界で使われる端末の1つである。都市コードや航空会社コード、空席照会、PNR作成、運賃照会を学び、予約・運賃に関する基本的な内容の習得をする。INFINI検定予約・運賃(中級)の取得を目指す。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				海外の主要空港の3レターを答えることができる。	
	○	○				日本に乗り入れしている航空会社の2レターを答えることができる。	
	○	○	○			INFINI端末を使用し、旅程の空席照会をし、画面の説明をすることができる。	
	○	○	○			INFINI端末を使用し、PNRを作成することができる。	
○	○	○			INFINI端末を使用し、運賃照会をし、画面の説明やルールの照会ができる。		
テキスト・教材 参考図書	INFINI Reservation and Fare Pricing 早見表						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	INFINI概要説明 INFINIとは 起動とサインイン、サインアウト			授業内容の復習をしておくこと		
	2	航空会社とGDSについて			授業内容の復習をしておくこと		
	3	航空運賃について			授業内容の復習をしておくこと		
	4	情報検索			授業内容の復習をしておくこと		
	5	空席照会、ダイレクトアクセス			授業内容の復習をしておくこと		
	6	スケジュール照会 PNR作成			授業内容の復習をしておくこと		
	7	PNR作成 (必須項目、フライト予約)			授業内容の復習をしておくこと		
	8	PNR作成 (フライト、ネーム、連絡先、担当者入力)			授業内容の復習をしておくこと		
	9	PNR作成 (入力と完了、完了後の画面確認)			授業内容の復習をしておくこと		
	10	PNR作成 (総復習)			授業内容の復習をしておくこと		
	11	PNR作成 (ロールプレイング)			授業内容の復習をしておくこと		
	12	国際航空運賃概要			授業内容の復習をしておくこと		
	13	運賃システム概要			授業内容の復習をしておくこと		
	14	Low Fare Searchとは 運賃確認方法			授業内容の復習をしておくこと		
	15	自動運賃計算 (公示運賃)			授業内容の復習をしておくこと		
	16	自動運賃計算 (特別運賃)			授業内容の復習をしておくこと		
	17	PNRからの運賃規則確認、マイルージ、通貨換算			授業内容の復習をしておくこと		
	18	運賃表示 (基本入力、オプション、規則)			授業内容の復習をしておくこと		
	19	運賃総復習			授業内容の復習をしておくこと		
	20	検定対策問題			授業内容の復習をしておくこと		
	21	模擬試験 第1回 解答と解説			模擬試験の復習をして、検定に備えておくこと		
	22	模擬試験 第2回 解答と解説			模擬試験の復習をして、検定に備えておくこと		
23	模擬試験 第3回 解答と解説			模擬試験の復習をして、検定に備えておくこと			
評価方法	(1)小テストを3回実施する。(2) 模擬試験を3回実施する。(3) 検定結果 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	小テスト	○	○		○		10%
	模擬試験	○	○	○			40%
	検定結果	○	○	○			50%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、単位付与しない						

科目名	ペン字						
科目名(英)	Penmanship						
単位数	2単位	時間数	15時間	担当者	入江陽子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	〇		
対象学科・学年	トラベル科						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業界ビジネスマンとして、日常生活における硬筆書写の一般の知識・理解を深め、業務遂行時に、実践出来る基礎力を習得する。 ・正しいペンの持ち方・姿勢を守り、書写することにより集中力を付ける。 						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: 〇	※ 主たる方法: 〇 その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	〇				目標		
			〇		正しい言語づかいで、自分の履歴書を書くことができる。		
			〇		書式に従って、美しい文字で書写することができる。		
			〇		正しいペンの持ち方・姿勢で書写することができる。 集中力を持って取り組むことができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ペン字基本一 氏名練習・基本点画			ボールペンの練習をしておくこと		
	2	" 一 基本点画練習			氏名の練習の復習をしておくこと		
	3	" 一 筆順・字形の整え方(字形24体)			基本点画の復習をしておくこと		
	4	" 一 数字 " (へんとつくり)			筆順の復習をしておくこと		
	5	" 一 平仮名の字源・練習			字形の復習をしておくこと		
	6	" 一 片仮名・横書きを美しく書く			平仮名の復習をしておくこと		
	7	履歴書 一 履歴書を体裁よく書くコツ			履歴書の必要事項を調べておくこと		
	8	" 一 履歴書ペン書き練習			履歴書の下書きを仕上げをしておくこと		
	9	" 一 履歴書清書			履歴書のペン書きをしておくこと		
	10	実用ペン字 一 封筒 伝票			履歴書清書提出できるようにしておくこと		
	11	" 一 のし書き、芳名帳			封筒の書式を見直しておくこと		
	12	" 一 手紙文(お礼状)			のし書きのやり直しをしておくこと		
	13	" 一 年賀状の書き方			手紙文を仕上げをしておくこと		
	14	就活に向けて 一 求職票の書き方			自己紹介文を考えておくこと		
	15	" 一 履歴書自己紹介文練習			下書きをしておくこと		
評価方法	(1) 授業の中で清書した履歴書を試験のかわりとして評価する。 (2) 出席を意欲点として評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品 履歴書 出席	〇		◎		◎	80% 20%
履修上の注意							

科目名	一般教養 I B						
科目名(英)	General education I B						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口恵子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	就職試験問題に対応できる基礎力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力を身に付け実際の採用試験に解答できる能力の養成を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				漢字検定準2級程度の漢字までは読み書きが出来る	
		○				計算問題を中心に正確に解答することが出来る	
	○	○				英検準2級程度の問題に解答することが出来る	
		○				地理や政治においての基礎的な内容を理解し説明が出来る	
テキスト・教材 参考図書	専門学校生のための一般常識トレーニング ミニテスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要説明、第3回実力テスト					
	2	ROUND11				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	3	ROUND12/13				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	4	ROUND13/14				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	5	ROUND14/15				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	6	ROUND15/16				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	7	ROUND16				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	8	第4回実力テスト				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	9	ROUND17				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	10	ROUND17/18				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	11	ROUND18/19				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	12	ROUND19				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	13	ROUND20				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
	14	ROUND11~15 まとめ				テキストの該当部分の復習をしておくこと	
15	ROUND16~20 まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)宿題や課題 (3)授業中の態度 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
	小テスト	○	○		○		10%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	海外研修						
科目名(英)	Overseas training						
単位数	1単位	時間数	64時間	担当者	若松昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	授業にて学習した旅行に関する知識を実践する機会として、また、旅行業務で必要とされる海外の文化や地理等の海外の観光資源についての理解を深め、国際感覚を養うことを目的とした研修旅行を実施						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					該当各国・エリアの観光地や物産、文化等の観光資源を深めることができる。	
		○				該当各国・エリアの観光地や物産、文化等の観光資源を説明することができる。	
		○				エリアに応じた行程表(行動予定)を作成することができる。	
			○			計画・予定に沿って行動することができる。	
			○			団体行動を認識し、周囲に配慮して研修を修了することができる。	
テキスト・教材 参考図書	海外観光資源、旅行ガイドブック、旅行会社各社の旅行パンフレット等						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	該当各国・エリアの観光資源－自然景観の学習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	該当各国・エリアの観光資源－観光地の学習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	該当各国・エリアの観光資源－名産品の学習			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	該当各国・エリアの観光資源－交通網の学習(鉄道路線・航路)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	行程表(行動予定表)－グループワークでの意見の集約			観光資源学習内容を復習しておくこと		
	6	行程表(行動予定表)－グループワークでの行程表作成			意見集約内容を確認しておくこと		
	7	行動表(行動予定表)－パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成			自グループの行程表を確認しておくこと		
	8	行動表(行動予定表)－グループ毎の行動予定を発表			プレゼンテーション内容の整理をしておくこと		
	9	実地研修－海外旅行での添乗員業務の学習			全体スケジュールの確認をしておくこと		
	10	実地研修－行動予定の実地検証			自グループの行程表を確認しておくこと		
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
評価方法	(1)観光資源の各学習内容の理解度で確認と評価を行う。 (2)行動予定表の完成度で評価を行う。 (3)実地研修に取組む姿勢(態度、意欲)も評価対象とする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	学習内容理解	◎	○				
	行動予定表内容		◎		○		
	研修への姿勢				◎		
履修上の注意	研修は希望者にて実施。						

科目名	観光英語B						
科目名(英)	Tourism English B						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	講師未定
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	テスト形式や出題内容に慣れることにより、試験での時間配分、問題を解く手順ができるようになる。10月に実施される観光英語検定3級取得を目標に、過去問題演習を基本に旅行に関する英語力を身につける。						
授業形式	講義:	○		演習:		実習:	
						実技:	
						※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				観光英語の試験問題を解くことができる。	
	○					試験での時間配分、問題解答手順を理解することができる。	
		○		○		観光地や食文化、土産のプレゼンを英語で表現することができる。	
テキスト・教材 参考図書	観光英語過去問 受験前にぜひチェックしておきたい頻出150項目(観光英検センター)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	観光英語検定概要・第36回過去問演習(筆記)				本日の復習・見直し	
	2	第36回過去問解答・解説(筆記)				本日の復習・見直し	
	3	第36回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	4	第36回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	5	第35回過去問演習・解答・解説(筆記)				本日の復習・見直し	
	6	第35回過去問・解答・解説(筆記)				本日の復習・見直し	
	7	第35回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	8	第35回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	9	第31回過去問演習・解答・解説(筆記)				本日の復習・見直し	
	10	第31回過去問解答・解説(筆記)				本日の復習・見直し	
	11	第31回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	12	第31回過去問演習・解答・解説(リスニング)				本日の復習・見直し	
	13	まとめ(評価試験)				地元の観光地を調べておくこと	
	14	グループプレゼン(地元の観光地を英語で紹介)				地元の食文化・土産をしらべておくこと	
15	グループプレゼン(地元の食文化・土産等を英語で紹介)						
評価方法	(1)演習問題を実施する。(2)評価試験(筆記)を実施する。(3)テーマに沿って英語で発表をする。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	演習問題		◎				30%
	評価試験	○					40%
	発表		○		◎		30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	企業インターンシップ						
科目名(英)	Corporate internship						
単位数	2単位	時間数	80時間	担当者	若松昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	旅行業界の現場において、実際の業務に触れることで職業観を養う。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					職場における敬語や言い回しを覚え、実際にお客様と会話することができる。	
		○				旅行業界用語について学び、実習中にそれらを用いて社員とコミュニケーションをとることができる。	
				○		就業規則を遵守し、社会人としての行動をとることができる。	
		○				個人情報や社外秘の取り扱いについて理解し、各企業のルールに沿って業務できる。	
			○			自ら仕事を見つけ、率先して行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	関連資料プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	実習前準備—自己紹介シートの作成					
	2	実習前研修①身だしなみや心構え				プリントを事前に読んでおくこと。	
	3	実習前研修②業界用語の確認				プリントを事前に読んでおくこと。	
	4	実習前研修③挨拶、緊急時の連絡方法				プリントを事前に読んでおくこと。	
	5	各企業でのインターンシップ				各インターンシップ先企業の指示に従うこと。	
	6						
	7						
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)事前研修時に2レター・3レター・業界用語の確認テストを実施する。(2)報告書の提出。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				50%
	報告書の提出				◎		50%
履修上の注意	事前研修時に実施する確認テストで9割以上正解しないと、インターンシップに参加できない場合がある。						

科目名	実用英語対策 I						
科目名(英)	Practical English I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	実用英語準2級合格に必要な英語の基礎を学ぶ。基本的な文法の知識の確認を行うと共に、比較的簡単な長文の読解を目指す。音読練習も加えたリスニング練習を反復的に行うことで、資格試験のみならず、日常会話に必要な力も伸ばしていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					下に記した文法事項について説明ができる。	
	○					簡単な長文を読んで概要を掴むことができる。	
	○					比較的短い英作文で自分の意見を述べるができる。	
	○					比較的短い対話文を聞いて概要を掴むことができる。	
○					比較的簡単なビジネス向けの単語を理解することができる。		
テキスト・教材 参考図書	実用英語過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	レベル判定テスト			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	2	英検 語句問題・対話文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	3	英検 語句問題・対話文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	4	英検 イディオム問題・長文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	5	英検 イディオム問題・長文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	6	英検 リスニング問題・英作文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	7	英検 リスニング問題・英作文問題			単語テストに向け該当箇所を覚える		
	8	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	9	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	10	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	11	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	12	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	13	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
	14	過去問題演習			不正解だった問題を解き直す		
15	評価試験						
評価方法	(1)復習テストを実施する。(2)単語テストを実施する。(3)評価試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎					50%
	復習テスト	◎					40%
	単語テスト	◎					10%
履修上の注意	希望者を対象に実施する。 出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	社会教養 I B						
科目名(英)	Social Study I B						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	若松昌枝
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	
対象学科・学年	トラベル科1年						
授業概要	業界の現状や職種を理解し、将来のイメージを想像し、就職活動に向けての準備とする。社会人基礎力を身に付ける機会とし、企業研究や自己分析の方法を学ぶ。また、求職票受付面接に向けての対策時間とする。						
授業形式	講義:	○		演習:		実習:	
						実技:	
						※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
			○	○		社会人としての身だしなみやマナーについて理解できる。	
		○		○		業界の職種への理解を深め、将来の自分を想像することができる。	
		○	○			自己PRを文章にすることができる。	
			○	○		自己PRを自分の言葉で表現し、他者に伝えることができる。	
			○		求職票受付面接の概要を理解し、意欲を持って取り組むことができる。		
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動概要、目標設定				後期の目標について考えておくこと	
	2	職業観について、アンケート実施				職業観について考えておくこと	
	3	業界の仕事～職種理解と求人傾向				業界の職種について復習しておくこと	
	4	自己分析～これまでの自分を振り返る～				過去の経験などをまとめておくこと	
	5	自己分析～長所、短所、趣味、特技等～				自己分析について考えておくこと	
	6	自己分析～自己PRを作成～				文章にできるようにまとめておくこと	
	7	企業研究とは				会社名を調べておくこと	
	8	面接試験について				面接の仕方を自分なりに考えておくこと	
	9	求職票受付面接の概要				振り返りを必ずしておくこと	
	10	求職票の書き方				求職票の内容の下調べをしておくこと	
	11	求職票記入				求職票の下書きをしておくこと	
	12	求職票受付面接の練習				質問を予測し、準備をしておくこと	
	13	求職票受付面接の練習				質問を予測し、準備をしておくこと	
	14	求職票受付面接の練習				質問を予測し、準備をしておくこと	
15	求職票受付面接の練習				質問を予測し、準備をしておくこと		
評価方法	(1)出席状況(90%以上) (2)プレゼンテーション(発言も含む) (3)態度意欲						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席率				○		80%
	意欲・態度				○		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	世界遺産地理 I						
科目名(英)	World Heritage I						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	若松昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科1年						
授業概要	世界遺産の成り立ちや登録申請、登録基準などの基礎知識を学ぶ。また、主に国内の世界遺産1つ1つの背景や歴史、自然などを学ぶと同時に、関連する世界遺産と比べながら、世界遺産検定3級の取得を目標とする。「訪れる」や「見る」だけでは知りえなかった、深く「学ぶ」ことでの観光地の魅力を知る機会とする。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				世界遺産とは何かを簡潔に説明することができる	
	○	○				日本の世界遺産の所在都道府県を答えることができる	
	○	○				日本の世界遺産を5つ挙げ、それぞれの登録基準について簡潔に説明することができる	
	○	○				海外の世界遺産を5つ挙げ、それぞれの登録基準について簡潔に説明することができる	
			○			世界の自然や文化の価値に気づき、旅の魅力の1つとして発信することができる	
テキスト・教材 参考図書	きほんを学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	世界遺産とは			テキストの該当箇所を読んでおくこと		
	2	世界遺産の基礎知識 (世界遺産誕生のきっかけ、概念、登録と申請)			テキストの該当箇所を読んでおくこと		
	3	世界遺産の基礎知識 (ユネスコ、登録基準)			テキストの該当箇所を読んでおくこと		
	4	世界遺産と日本、世界遺産と観光のつながり			テキストの該当箇所を読んでおくこと		
	5	自然遺産 (知床、白神山地、セレンゲティ、サガルマータ)			テキストの該当箇所を読んでおくこと		
	6	自然遺産 (小笠原諸島、屋久島、ガラパゴス、グランドキャニオン)			復習をしておくこと		
	7	日本の文化遺産 (平泉、日光の社寺、富士山)			復習をしておくこと		
	8	日本の文化遺産 (富岡製糸場、国立西洋美術館、白川郷)			復習をしておくこと		
	9	日本の文化遺産 (古都京都、古都奈良、法隆寺)			復習をしておくこと		
	10	日本の文化遺産 (紀伊山地の霊場、姫路城、石見银山)			復習をしておくこと		
	11	日本の文化遺産 (厳島神社、原爆ドーム、琉球王国)			復習をしておくこと		
	12	日本の文化遺産 (明治産業、沖ノ島、天草地方のキリシタン)			復習をしておくこと		
	13	検定模擬試験 1回目 解答と解説			これまでの復習をしておくこと		
	14	検定模擬試験 2回目 解答と解説			前回の模擬試験の復習をしておくこと		
15	検定模擬試験 3回目 解答と解説			前回の模擬試験の復習をしておくこと			
評価方法	(1)確認テストを3回実施する。(2)模擬試験と検定結果 (3)正試験を実施する。 以上を下記の割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	確認テスト	○	◎				10%
	模擬試験・検定結果	○	◎				10%
	正試験	○	◎				80%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	ビジネス実務 I							
科目名(英)	Business Ability I							
単位数	2		時間数	30時間		担当者	講師未定	
実施年度	2019年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目		
対象学科・学年	トラベル科・1年							
授業概要	社会人として好感を持たれる態度や話し方、社会人として求められる心構え・マナーを身に付けることを目標とする。							
授業形式	講義:	○		演習:		実習:		
						実技:	○	
	※ 主たる方法:○ その他:△							
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○			○		好感の持たれる態度や話し方・聞き方ができる。		
		○		○		相手の立場になって考え行動できる。		
	○	○				適切な敬語を使えるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	実践ビジネスマナー ウィネット							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	オリエンテーション・自己紹介						
	2	社会人としての心構え						
	3	身だしなみのマナー・基本動作					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	4	会社組織の仕組み・指示の受け方と報告の仕方					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	5	報告・連絡・相談の重要性					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	6	言葉遣いの基本 話の仕方・聞き方					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	7	言葉遣いの基本 敬語の基本					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	8	言葉遣いの基本 間違えやすい敬語					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	9	来客対応 接遇の心構え					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	10	来客対応 受付対応・案内の仕方					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	11	来客対応 名刺交換					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	12	来客対応 お茶の入れ方					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	13	電話対応 電話の受け方・伝言メモの作成					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
	14	電話対応 電話のかけ方					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。	
15	後期の補足説明					身に付けたマナーを日常生活の中で実践。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施 (2)ロールプレイング 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				70%	
	ロールプレイング	○	○	◎	◎		30%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。							

科目名	コミュニケーション技法						
科目名(英)	Communication						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	コミュニケーションとは何か。よりよいコミュニケーションのために大切なことは何かを理解する。言いたいこと、言うべきことを明確に簡潔に相手に伝えることができるようにする。言語表現力を高めることにより、セルフエスティームを向上させ、新たな社会で生きていく自信をつけさせる。社会での事象への関心を深めさせ自分と社会を関連づけて考えることができるようにする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					1対1での対話がきちんとできる。	
	○					自らの意見、考え方、価値観を開示することができる。	
		○				人の話をしっかりと聞き、考え方や価値観の多様性を理解できる。	
		○				ニュースに関心を持ち、社会的存在としての自分に気付くことができる。	
	○				自分とは何か、自分はどんな人間か、より深く考えることができる。		
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会とは何かー社会とは？家庭とは？クラスとは？					
	2	何を学ぶかー何を手に入れたいか？コスト意識を持つ					
	3	コミュニケーション(1)ーマナー、返事、1対1で話す					
	4	コミュニケーション(2)ー聞く、質問する					
	5	コミュニケーション(3)ー相手の話を要約する					
	6	コミュニケーション(4)ー実践報告					
	7	スピーチ(1)ー「物」を媒介にして自分を伝える①					
	8	スピーチ(1)ー「物」を媒介にして自分を伝える②					
	9	スピーチ(2)ー「言葉」を媒介にして自分を伝える①					
	10	スピーチ(2)ー「言葉」を媒介にして自分を伝える②					
	11	スピーチ(3)ー「ニュース」を媒介にして自分を伝える①					
	12	スピーチ(3)ー「ニュース」を媒介にして自分を伝える②					
	13	自己分析ーあなたはどんな人ですか？					
	14	グループディスカッション					
15	社会とは何かー社会人となるため留意するポイント						
評価方法	成績は下記の観点、割合で評価する ①出席状況 ②平常点(授業態度、参加の度合い、発表に対する積極性他)③技能点(各課題ごとに評価) 成績評価基準はS(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				◎		30%
	平常点		○		◎		30%
	技能点	◎			○		40%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は評価なし。						

科目名	観光演習						
科目名(英)	Sightseeing Exercise						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	旅行業界での実務に備え、仕事の流れの理解、時刻表の使い方を習得し、旅行行程作成のための基礎知識や観光地理知識の定着をめざす。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				旅行業界の仕事の流れを理解することができる。	
	○	○				業務としての時刻表の使い方ができるようになる。	
		○		○		時刻表を使用し、旅行行程表を作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	交通新聞社「JR時刻表」、白地図、帝国書院「旅に出たくなる地図 日本」、ツアーパンフレットなど						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、運輸業界・鉄道業界の概要					
	2	運賃計算の復習				前期「国内運賃料金」の復習をしておくこと	
	3	料金計算の復習				前期「国内運賃料金」の復習をしておくこと	
	4	JR時刻表の構成と使い方、JRの概要					
	5	JR時刻表の構成と使い方、JRの路線と列車					
	6	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(九州・沖縄)					
	7	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(中国・四国)					
	8	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(近畿)					
	9	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(中部)					
	10	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(関東)					
	11	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(北海道・東北)					
	12	JR時刻表の使い方、国内観光地理知識(その他)					
	13	ツアーパンフレットの旅程分析、旅程作成①				旅程作成の内容をまとめておくこと	
	14	ツアーパンフレットの旅程分析、旅程作成②					
15	ツアーパンフレットの旅程分析、旅程作成③、まとめ						
評価方法	(1)定期試験 (2)旅行行程表の完成度にて評価 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	行程表作成		○		◎		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	観光概論						
科目名(英)	Introduction to Sightseeing						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	旅行業界の概要、職種及び業務内容の理解、企業の研究を行い、自身の就業する方向性を認識し、次年度の就職活動に活かす。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				旅の5大要素(交通、宿泊、食事、買物、観光)を理解することができる。	
		○				旅行業界の概要(業界現状、魅力、やりがい)を理解することができる。	
	○					旅行会社の職種(企画、営業、接客、手配、添乗)を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各種資料プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	旅行業界の全体像を知る①					
	2	旅行業界の全体像を知る②				前回授業内容の復習	
	3	旅行会社の職種の理解①					
	4	旅行会社の職種の理解②				前回授業内容の復習	
	5	主要旅行会社の概要					
	6	旅行会社の形態と種類				前回授業内容の復習	
	7	他業界と旅行業界の関係性					
	8	業界の求める人材の把握とまとめ				授業プリントとノート内容の整理	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)定期試験 (2)自分の考えを積極的に発言する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	授業内の発言				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	鉄道業界概論						
科目名(英)	Railway industry Introduction						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	講師未定		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	鉄道に関する基礎的な知識を習得し、鉄道業界の社会的役割・現状と課題及び将来展望を理解する。また、主要各社の経営内容を研究し旅行業との関わりを学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				鉄道に関する基礎知識を習得することができる。	
		○				鉄道業界の役割と現状を把握することができる。	
	○	○				主要各社の経営内容を理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	JR時刻表						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	交通機関としての鉄道の役割					
	2	鉄道の歴史				授業内容の復習	
	3	車両の形式・番号及び駅名				授業内容の復習	
	4	旅行業と鉄道の関わり				授業内容の復習	
	5	交通運輸業界の概観				授業内容の復習	
	6	鉄道会社の仕事				授業内容の復習	
	7	JR各社の現況(JR東日本)				授業内容の復習	
	8	JR各社の現況(JR東海)				授業内容の復習	
	9	JR各社の現況(JR西日本)				授業内容の復習	
	10	JR各社の現況(JR九州)				授業内容の復習	
	11	私鉄の現況(関東・関西)				授業内容の復習	
	12	私鉄の現況(九州他)				授業内容の復習	
	13	交通運輸業界の課題と将来展望				授業内容の復習	
	14	まとめ				評価試験に備え、総合的に復習しておくこと	
15	評価試験						
評価方法	(1)理解度テストを実施する。(2)評価試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	評価試験	◎	○				80%
	理解度テスト	◎	○				20%
履修上の注意	出席が16回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	添乗実務						
科目名(英)	Tour conductor Practice						
単位数	3単位	時間数	45時間	担当者	山崎正比古/齊藤道幸		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	トラベル科・1年						
授業概要	国内添乗業務の実務、添乗に関係する旅行業法、約款を学習、理解を深める。また、実際の添乗実務を体験し 将来チーフ添乗業務を遂行でいけるようになる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				国内添乗業務の実務内容を理解することができる。	
	○	○				添乗業務に関連する法令、約款を理解することができる。	
	○	○	○			国内旅程管理業務を行う主任者の資格を取得できる。	
テキスト・教材 参考図書	旅程管理研修教本(日本添乗サービス協会)、旅程管理業務に関する旅行業法・旅行業務約款の解説(日本旅行業協会)、講師作成レジメ						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	旅行業会の変遷と現況					
	2	添乗員の役割、添乗業務の基本				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	3	運輸機関別添乗業務について①(貸切バス)				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	4	運輸機関別添乗業務について②(航空機)				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	5	運輸機関別添乗業務について③(JR)				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	6	運輸機関別添乗業務について④(船舶)				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	7	事故・トラブル発生時の対処				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	8	国内旅程管理業務総括				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	9	企画旅行と旅程管理業務について				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	10	旅程管理責任とは				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	11	損害賠償、特別補償、変更補償について				テキストを事前に読んでおく(講師が指定)	
	12	添乗実務経験(日帰り旅行)				添乗指示書、行程表	
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)実務・業法確認テストを実施。(2)修了試験の結果にて評価。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	旅程管理研修修了試験	◎	○				80%
	確認テスト	◎	○				20%
履修上の注意	旅程管理研修、添乗実習終了後、修了試験に合格することで、「旅程管理業務に関する研修の課程を修了」となる。						